

地域学校協働活動推進員が核となり 地域と協働した「ふるさと教育・キャリア教育」の推進



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
北秋田市立 鷹巣小学校	鷹巣小学校学校運営協議会 令和2年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 0名 0名	鷹巣地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校では、学校教育目標「豊かな心、確かな学力、すこやかな体の子どもの育成」の下、ふるさとへの愛着と誇りを育む「ふるさと教育・キャリア教育」を実践課題とし、地域と連携した教育活動に取り組んでいる。学校運営協議会導入時には、「本校の取組が地域に伝わっていないため、開かれた学校づくりが十分に行われていない」「学校に協力したいと思っても、その機会が少ない」「少子高齢化が急速に進み、地域の産業や文化が継承されにくくなっている」という課題が挙げられた。

目標や目指す姿(学校)

「ふるさと教育・キャリア教育」の実践を土台に未来を生き抜く力を育む

目標や目指す姿(地域)

地域全体で子どもたちの成長を支えていく環境づくり
～地域と学校が共に手を携えて～



鷹巣小学校学校運営協議会

の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進員 | <input type="checkbox"/> 子ども見守り隊 |
| <input type="checkbox"/> 保護者・PTA関係者 | <input type="checkbox"/> 元校長 |
| <input type="checkbox"/> 民生児童委員 | <input type="checkbox"/> 子ども会育成連合会 |
| <input type="checkbox"/> 放課後児童クラブ関係者 | など、計 11 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 商工会・観光協会関係者 | 年間平均 3 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

実効性のある協議にするために、学校運営協議会委員には、前期・後期学校評価結果(児童・保護者・教職員が評価)を事前に配付し、各自の意見を準備して会議に臨んでいただいている。また、常時、学校の様子を学校報等を通して伝えている。学校運営協議会での協議内容、地域学校協働活動の様子や児童及び地域ボランティアの感想については、随時、学年通信、学校報、HP及びPTA会報等で保護者等への周知を図っている。学校運営協議会委員からは、学校と地域がつながる活動の充実に関する意見が多く、協議を通して様々なアイデアや支援・協力が得られる学校運営協議会となっている。



特徴的な取組と成果・効果

取組

学校運営協議会

上記の課題について、学校運営協議会では「地域に目を向ける」「環境保全・奉仕活動」「郷土の歴史や文化・産業にふれる」「人とのふれあいを深める」「未来を見つめて」の視点で協議し、学校と地域が連携し、生活科・総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム・マネジメントの充実を図っていくことにした。



学校運営協議会

地域学校協働活動

生活科・総合的な学習の時間では、「植物への世話活動を通して児童の思いやりの心を育む」という願いを学校と地域が共有し、地域学校協働活動推進員とJA女性部が中心となり、教職員と連携し、農園活動をはじめとする様々な体験活動を実施している。



4年生 ちやくりん料理教室

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

- ◆年3回、地域学校協働活動推進員と全教職員が活動内容の確認や活動後の振り返りをしたり、児童の変容、地域ボランティアの感想等を話し合ったりする場を設けている。
- ◆地域学校協働活動推進員と教職員が活動のねらいを共通理解することで、教育活動の質の向上につながっている。また、活動中の役割分担を明確にすることで、教職員による児童の確かな見取りができる。PDCAサイクルを機能させ、地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員として、学校経営構想に基づいて、児童の実態等を把握し、育てたい資質・能力を地域ボランティアに明確に伝えながら、地域学校協働活動を進めている。

成果・効果

【指標】

	指標1	指標2	指標3	指標4	指標5
	よい所を 言える	市の事が 好き	市の事を 知りたい	将来も大 切に	地域行事に参 加している
R2	52%	66%	54%	73%	32%
R3	59%	78%	69%	85%	30%

【児童・教職員及び地域住民の声】

- ◆ちやくりん料理教室には地域の方がたくさん来てくれて、やさしく教えてくれました。とても楽しかったです。今度、家でもやってみたいです。(児童)
- ◆事前準備や事後の片付けを地域学校協働活動推進員や地域ボランティアが行ってくれているため、児童と向き合う時間が十分確保され、負担軽減につながっている。(教職員)
- ◆地域の子どものために役に立ってうれしい。また学校の活動に協力したい。(地域住民)

※指標の数値は、ふるさと教育アンケート(北秋田市教育委員会が実施 対象3～6年生)に対する「当てはまる」の割合を示す。

- ◆地域学校協働活動を通して、ふるさと北秋田市への愛着と誇りをもつ児童が増えた。このことが、コロナ禍においても地域と関わる活動を継続したいという児童の意欲につながり、ふるさとPR動画作成という新たな活動につながる原動力となった。
- ◆学校運営協議会での提案が学校と多様な地域住民とのつながりを生み出し、生活科・総合的な学習の時間を中核とした「ふるさと教育・キャリア教育」が行われ、ふるさとを創る次世代の人材育成につながる教育活動を展開することができた。